

令和2年9月4日

嬉野市議会  
議長 田中政司 様

産業建設常任委員会  
委員長 川内 聖二

## 産業建設常任委員会報告書

令和2年6月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会  
会議規則107条の規定により報告する。

付託事件名 **新型コロナウイルス感染症関連について**

### 【調査理由】

全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、嬉野市内においても、自  
粛要請や自主規制により、経済的に大きな影響を受けている状況である。

そこで当委員会では、嬉野温泉料飲店組合と佐賀県農業協同組合の2団体と  
新型コロナウイルス感染症の影響等について意見交換会を行うこととした。

### 嬉野温泉料飲店組合との意見交換会

#### 【調査概要】

調査日 令和2年8月4日 14:30~16:00

場 所 うれしの市民センター 1-1, 1-2 会議室

対応者 嬉野温泉料飲店組合 組合長 辻本数記 氏 他13名

新型コロナウイルス感染症の影響等により、4月17日から緊急事態宣言が  
全国に発布され、佐賀県でも店舗営業自粛要請が約1ヶ月間実施された。

市内の料飲店も期間中に休業や時短の要請が行われ、それに伴い経済的にも  
精神的にも不安な日々を送られている。

これまで、市内の事業者は国からの持続化給付金等や県の店舗休業支援金、  
地方創生臨時交付金等を活用した市独自の緊急対策事業や緊急支援事業を受  
給されて、これまで店舗を維持されている。

しかし、中には先行きが見えないため店を閉められた店舗も幾つかあった。

このようなことで、今回、当委員会との意見交換会を開催し、テーマとして新型コロナウイルスの影響等についてと題し、課題1、コロナ後の現状や国・県・市等の支援制度を受けて、課題2、今後の対策等について、として組合の役員に率直な感想や意見を伺った。

## 佐賀県農業協同組合との意見交換会

### 【調査概要】

調査日 令和2年8月5日 10:00~12:00

場 所 佐賀県農業協同組合 塩田支所 中会議場

対応者 農協理事4名、支所長2名、生産組合長2名

嬉野市の基幹産業である農業関連においても、新型コロナウイルス感染症の影響で消費者である飲食店や宿泊施設ならびに学校給食の休業等で、生産者側は販路を失い大きな痛手を受けている。

その中でも、お茶に関しては、1月期から3月期にかけての催事等の開催も中止となり、例年では下級茶の在庫が無くなる状況が、今年は、どこの茶商にも在庫が多くあり、生産者から二番茶の購入が不調になる懸念が生じた。

それと、玉ねぎや花の消費低迷により単価の下落等によって生産農家は、経済的に不安な状況に立たされている。

このような状況を踏まえ、消費拡大を目指し県や市独自でいろんな緊急経済対策事業や緊急支援事業を展開されてきたが、これまで行われてきた対策事業に対しての意見や感想、そして、感染症の影響で生産者が経済的に困られた事や今後の対策についての意見を代表役員等から話を伺った。

### 【委員会の意見】

今回、料飲店組合との意見交換会では新型コロナウイルス感染症の影響についての意見では、これまでの対策事業に関しては、雇用調整助成金の申請の書類が煩雑で、中でもシフト表の様式が事業者側のものと違い、申請書については簡素化をお願いしたいとの要望をされた。

また、全体的な事業者の不安要素として、来店されるお客さんが咳をされると不安になるので、希望をすればPCR検査を簡単に受けるようにはできないかという意見や、感染者がでたら店を休業するだけでなく、SNS等で風評被害を受けると廃業しなければならない等の不安を語られた。

委員会としては、雇用調整助成金に関して事業者への支援金等は幾つかある

が、個人に対しての支援対策が少ないので新たな対策が必要ではないかと考える。また、早急に対応できるように給付までの簡素化も求められる。

さらに、PCR検査の増加に関しては、医療崩壊を考慮すれば難しいと思うが、事業者が接客に関してマスクでの対応は失礼に当たるとの考えを改めて頂き、排気と吸気を同時に行う高機能換気扇の設置や、フェイスシールドやパーティションを使用しての営業を行ってもらえばと考える。高機能換気扇に対しては補助事業として検討すべきではないかと考える。

事業者側からすれば報道でよく聞く「開けても地獄、閉めても地獄」という状況を意見交換会のなかで強く感じた。

次に、佐賀県農業協同組合との意見交換会では、お茶の成分カテキンが感染症の予防になるのではないかとこのことで、市内の学校給食にお茶を提供してはどうかとの意見があった。

また、農協と市での二番茶の中刈りに対する事業に関しては、評価がよく今後も品質向上のため継続して貰えばと要望をされた。

委員会としても改めてお茶のカテキンが新型コロナウイルス感染症に対し何らかの効力があるかを検証して頂き、効力が少しでもあれば、PRに活用して、ピンチをチャンスに変えられるのではないかと考える。

今回、飲食店等や宿泊施設の休業要請により、農産物の消費減少で、中でも牛肉に関しては、高級肉の消費が大きく減少したそうだ。

しかし、今回の対策事業のウキウキパックで活用されて大変助かったということで、お歳暮の時期にも事業化をしてもらいたいと話されたので、新たな施策の展開も必要ではないかと考える。

終息が見えない新型コロナウイルス感染症の影響により、市内の事業者や生産者におかれては、今後、経済的にも精神的にも大変心配をされている。これまでの市で行われた支援事業や経済対策事業の成果で「助かりました」という意見が多かった。行政としては、財政的にも大変だと思うが今の時期を有事であるということを認識し、嬉野市の経済を崩壊させないためにも、少しでも多くの対策事業を打ち出して、今後も市民の力になるような施策に期待する。